

三田市教育振興基本計画検討委員会（第3回） 会議録

日 時	令和3年5月31日（月） 午後6時から午後7時54分終了
開 催 場 所	三田市役所南分館6階601会議室（オンライン会議併用）
出 席 委 員	佐藤 真、中間 玲子、仲矢 史雄、尾上 尚司、大東 真弓、藪田 昌夫 下中 邦昭、橋本 真由美、岸本 高太郎
欠 席 委 員	松本 衣里香
学 校 関 係 者	岡崎 正文、吉田 裕彦、廣瀬 みちか、谷本 正弘
事務局出席者	（教育長）鹿嶽 昌功 （学校教育部長）松下 修 （地域創生部市民協働室長）曾根 義隆 （子ども・未来部子ども未来室長）横溝 裕香子 （子ども・未来部子育て応援室長）西垣戸 泰 （学校教育部次長）外岡 明文 （教育総務課長）浅野 晋司 （学校教育課長）山本 直也 （教育支援課長）山口 貴久 （教育研修所長）小山 恵介 （教育総務課担当課長）上野 樹 （学校教育課主幹）神戸 康正 （教育研修所係長）石塚 誠 （教育総務課主任）鈴木 さやか （教育総務課指導主事）松田 成行
議 題	1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 （1）前回（第2回）会議録について 【資料1】 （2）前回（第2回）委員意見について 【資料2】 （3）計画素案について ① 第3期計画の骨子案 【資料3】 ② 基本施策の展開（基本施策1～6） 【資料4】 （4）市民意見について 【資料5】 4 次回予定 5 閉会
傍 聴 人	2名

会議の概要

事務局(司会)	<p>1 開 会</p> <p>只今から第3回三田市教育振興基本計画検討委員会を開会します。本日は大変お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。今回の開催は緊急事態宣言発出期間中のため、インターネットを利用したリモート会議の方式と、来庁による対面のオンライン併用という形で開催します。</p> <p>本日委員の皆様のご出席をいただいております。三田市教育振興基本計画検討委員会第三条第二項の規定により会議が成立していることをここでご報告いたします。なお本日松本委員が欠席、橋本委員は後ほどオンラインで出席される予定です。</p> <p>第1回委員会の中で会議の公開についてご承認いただきましたが、附属機関等の会議の傍聴要項等に基づき希望者に対して傍聴を許可することをご承認いただきたいと思っております。現在2人の方が傍聴に来ておられます。</p> <p>それでは委員会の開会にあたり、佐藤委員長よりご挨拶をいただきたいと思っております。</p>
委員長	<p>2 委員長あいさつ</p> <p>(挨拶)</p>
事務局(司会)	<p>議事に入る前に今回の会議資料の確認、リモート会議のルールを確認します。皆さんお手元の資料をご確認ください。</p> <p>【資料1】として、第2回会議録 【資料2】として、第2回委員意見 【資料3】として、第3期計画の骨子案 【資料4】として、基本施策の展開（基本施策1～6） 【資料5】として、市民意見について</p> <p>以上の資料をお配りしております。</p> <p>【資料5】につきましては、計画策定にあたり、広く市民の皆様からご意見をお聞かせいただくために意見募集を行っているものです。計画策定の参考資料としてお読み取りいただければと思います。</p> <p>次に会議のルールですが、皆様のマイクマークに斜線が入っているかと思いません。現在ミュートの状態に設定していただいておりますが、発言される場合はミュートを解除してご発言いただくこととなります。発言される場合はマイクマークをクリックして斜線を取り除いてからお願いします。また、議事の内容に異議がない場合は挙手によりご意向を確認します。ビデオはオンの状態でお願ひします。</p> <p>それではこの後の進行を佐藤委員長にお願いしたいと思っております。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 前回(第2回)会議録について【資料1】</p>

委員長	<p>レジュメに沿って進めていきたいと思います。今回は、三田市の教育に関するアンケート調査、調査結果報告書、第3期計画の骨子となる計画の基本理念とめざす子ども像、その実現に向けた3つの基本目標と10の基本施策の体系について議論しました。事前に事務局から第2回の議事録をいただいていると思います。</p> <p>(2) 前回(第2回)委員意見について【資料2】 (3) 計画素案について ①第3期計画の骨子案【資料3】</p>
委員長	<p>それでは「前回(第2回)委員意見について」に移ります。 前回の委員会で議論いただきました内容について、事務局が検討した資料が資料2、第3期の骨子案としてまとめた資料が資料3となります。 資料2と資料3について、事務局よりまとめて説明いただいた後、審議したいと思いますがよろしいでしょうか。(異議なし) それでは事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局より【資料2】【資料3】について説明</p>
委員長	<p>【資料2】【資料3】について各委員からご意見やご質問はございますか。</p>
学校関係者	<p>【資料2】の1ページ、「番号2番、基本理念の中にコロナのことも入れてほしい」という検討結果・修正について、資料に「記載はしています」とあるのですが、現場としては危機に直面して困難を乗り越えようとしている時に、この記述は薄いのではないかと感じます。記載をあちらこちらに分散するのではなく、もう少しコロナについてしっかりとまとめる方が良いと思います。コロナの中、私たちは生活の不自由さを経験していますが、日常のありがたさであったり、人の温かさであったり、つながりの大切さ、このようなものを感じています。また、学習保障の必要性、命や人権の大切さも感じています。資料にもまとめていただいていると思いますが、経験したことの無い時代を生きるには、正解のない問いに対して答えを出す力、自分で考える力、仲間と知恵を出し合うことの大切さが必要であると以前から感じています。このあたりをまとめていただき、今の経験が無駄にならないように、この経験が自信となるような記述ができればと思います。</p>
事務局	<p>今回のコロナで様々な制約がある中、なんとか教育を続けてきた経験、今まで日常に当たり前であったものがなくなったことによって、気づいたことはたくさんあるということだと思います。経験を経て、何が大切なのか、何を残さなくてはいけないのかなど、色々と気づくことができた大事な期間であると感じます。そういった経験を活かしてこれからやらなければならないことを検討しなくてはなりません。そのあたりを踏まえることができるように、少し修正を検討していきます。</p>

委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>私が最近読んだ本の中に、耐える力、レジリエンスがとても重要ではないかと書いてある本があり、改めて資料3の9ページをご検討いただければと思います。</p>
学校関係者	<p>基本目標についてご説明いただき、大変理解ができました。「持続可能な社会のつくり手となる子どもの育成に取り組みます」ということが、基本目標の1番目に打ち出されていましたが、それらが視点となり基本目標1、2、3を貫く骨子のような形の構成に変わっていることを理解しました。しかし、基本目標1の「生きる力を育む教育を推進します」の中で、もう少しSDGsの視点が子どもたちの生きる力や、今後、コロナという地球規模の危機の中で、どういう力を子どもたちに付けていくことが必要なのかということを書き足したほうが、よりこの「生きる力を育む」という基本目標が生きてくるのではないかと思います。</p>
委員	<p>SDGsについて、私は三田市総合計画審議会の委員もしているのですが、審議会の中に、「今更SDGsを挙げるのですか」という先生がおり、今更この言葉だけを特化するの古いのではないかとおっしゃっていました。当たり前のこととして、すべてがSDGsであるので、改めてこの言葉だけを出すというのは、言葉に惑わされるのではないかと、全体に流れるものであるという理念を持たないとだめだということ、審議会の中で話をされていました。SDGsと言う言葉だけを出すと、それだけが特化されてしまうので、すべての中に流れているものであり、市の総合計画との整合性が必要ではないかと思いました。</p>
事務局	<p>SDGsにつきまして、総合計画との整合性もありますので、表現の方法について事務局で預かりまして、次回、示せたらと思います。</p>
委員	<p>資料3、12ページの具体的な5つの子どもの姿が5点あげられていますが、2つ目の「課題と向き合い深く学ぼうとする子」に「深く」が入ったのはとても良いと思います。その前の「課題と向き合い」というところについて、課題と向き合うことは必要ですが、その前に、意欲、学びたい、やってみたいという、目標に向かっていくということがあり、それをしつつ、その中の課題と向き合っていくのではないかと思いますので、目的、目標という言葉も文言としていかがでしょうか。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。ご意見ということですので、事務局で文言を再度検討いただければと思います。</p>
事務局	<p>課題だけでなく、意欲を持って目的に向かって、というところが汲み取れるように検討していきたいと思います。</p>
委員長	<p>知的好奇心という、とても良いキーワードがありますので、活かしていただけれ</p>

学校関係者	<p>ばと思います。</p> <p>資料3の12ページ、黒丸の4つ目の説明部分、「さまざまな人と協働しながら社会の変化を乗り越え」、という文言についてですが、「変化を乗り越え」ではなく「困難を乗り越える」ということなわかります。他のページに「しなやかに対応」とあるように、ここは「社会の変化に柔軟に対応し」とするほうが良いのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>全体的に資料3がよくまとめられていると思っています。「自分や人を大切にし」というところを「自分と人を大切にし」と一文字変えていただだけで、自分も人も明確になるように思うのですがいかがでしょうか。「や」だとひとまとめにされているような気がします。</p>
委員長	<p>只今の意見については事務局の方で再度確認をお願いしたいと思います。</p>
	<p>(3) 計画素案について</p> <p>②基本施策の展開（基本施策1～6）【資料4】</p>
委員長	<p>それでは、(3) 計画素案についての②に移ります。</p> <p>計画素案として、基本施策1～6までの取組と目標となる指標等について議論を始めていきたいと思っています。</p> <p>事務局から基本施策1～6の大きな枠組み、体系について説明いただいた後、基本施策1から順に6まで、一つずつ審議したいと思います。</p> <p>では、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局より、基本施策1～6の全体について説明</p>
委員長	<p>まず、基本施策1から進めます。時間を計算すると、6つの施策ですので、1つに対して平均すると約10分で時間設定しておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、基本施策1について、事務局説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局より、基本施策1について説明</p>
委員長	<p>基本施策1について何かご質問、ご意見はありますか。</p>
委員	<p>中学校の理科の学力について、苦手な子とできる子の違いというのは、中学校の数学の成績のよりも、小学5年生の時のつまずきが原因で、中学校に入ってから理科が苦手になっていくということが知られています。小中一貫した教育活動が推進されている中、小学校と中学校の学力の連携について、各学校が学力向上推進改善プランを立てているのに合わせて、小中の連携がさらに図れば良いので</p>

	<p>はないかと思います。その様な取組が、枠組みの中に埋め込んでいけば教育委員会の先生方にとって、取り組みやすいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>三田市を挙げて学力テストの改善プランを各校準備しているところですが、委員がおっしゃったように小中の連続性につきましても、今後も充実した取組となるよう考えていきます。</p>
委員	<p>最初から全体的に取り組んでいくよりも、スモールスタートでモデル校のようなものをつくって、その取組を広げていくと良いのではないかと思います。</p>
委員長	<p>9ページにも小中一貫した教育活動の推進というのがありますので、ぜひ進めていただきたいと思います。</p>
学校関係者	<p>8ページのところの3つ目と4つ目の主な取組のところですか。学力向上に向けた補充学習および、発展学習の充実、ひとり学びへの手引きの活用について、ひとり学びの手引きが、今まで取り組んできた学び方について、皆が理解して進めていくことは本当に大切なことだと思います。これからの時代、授業の中でも進めていくことが大切ではないかと思うとともに、ここでこそICTという言葉が入ってきて然りだと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ひとり学びの手引きというのは毎年少しずつ改訂を繰り返しているものの、今回、端末導入等GIGAスクール構想を推進することによって、大きく変わろうとしています。それに向けた取組を、ひとり学びの手引きの中でも図っていかないといけないと思っているところです。そういう意味でも、ICTの文言を入れていくということも大切なことですので検討していきたいと思います。</p>
委員長	<p>個別最適な学びと協働的な学びというのが最も重要であり、ICT、GIGAスクール構想というのはそのための手段であります。オフラインの学びとオンラインの学びのハイブリッドをどうやっていくか、という文言も合わせてお考えいただければと思います。</p>
事務局	<p>そのことも踏まえて考えていきたいと思います。</p>
委員	<p>8、9ページですが、中1ギャップというのはやはりあると思います。小学校で丁寧に見てもらっていた子どもが、中学校の大人数の中では、学びだけでなく生活の面でもなかなか厳しいのではないかと思います。地域が間に入ったとしても、中1になって世界が変わってしんどいようです。やはり地域も連携していくということが大事だとあらためて思います。色々な地域の、寺子屋や学び舎というのが各小学校区で活動されています。そことも連携しながら学習支援をしていく、学校でも支援するのだけれど、地域でもそういう場を持つことについて記</p>

	<p>載いただけると地域としては嬉しいです。</p>
事務局	<p>地域と家庭が連携した取組については、基本目標2の基本施策8、または9ですが、この部分にも入れるのかも含め、検討します。</p>
学校関係者	<p>2点あります。9ページの施策の文章表現です。保幼小中の11年間を見通し、とあるのですが、この11年間というのは小中の9年間プラス2年間という計算だと思うのですが、3歳児保育が実施されています。これが今後拡充されていくことも考えると12年間になるのではないのでしょうか。</p> <p>もう1点、9ページの主な取組の最後の「学校園所連携の推進」のところと、施策の方向の「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続」について、これからの育ちと学びをつなぐ教育というのは、これまでの学校園所連携の情報交換や、交流などの取組ですでにできていると思いますので、それを土台に育ちと学びの円滑な接続を図るといえるところは、各教育要領や、指針、学習指導要領の方でも示されていると思います。幼稚園の教育要領であれば、幼稚園の終わりまでに、育てほしい姿を明確にして、これを小学校の教師と共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るように努めるものと記されています。</p> <p>このことを踏まえると、9ページの施策の方向性の上3行は小学校の指導要領の総則にも記されている内容であり、その次の、また小学校生活に適用できないという文章を見ますと、小1プログラムに対応するために円滑な接続を図るといように読み取れました。円滑な接続や育ちと学びの連続性の重視は、小1プログラム、いわゆる子どもの心の安定への対応ではなく、幼児期に育まれてきた学びや、子どもたちの育ちというものを教師同士が理解、共有してつなぐことが重要ではないかと思いますのでご検討よろしく申し上げます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。連携を図ることは教師にとって当然のことであり、接続のことについて重点的に書いていただきたいと思いますので、ご検討いただきたいと思います。</p>
委員	<p>基本的な質問になるのですが、11年とか12年とあったのですが、幼児期は3年と数えるのですか。</p>
事務局	<p>乳児が0歳から2歳。幼児というのは満3歳からになりますので、幼児期というのは3歳からになると思います。</p>
委員長	<p>事務局にはそのように計算していただきたいと思います。 それでは、基本施策2について、事務局説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局より、基本施策2について説明</p>

学校関係者	<p>10ページのところで、豊かな心の育成として上から3段落目、また外国にルーツのある子どもや性的マイノリティ、障害のある子ども等、多様な背景を持つ人々と豊かに共生するためということで、子どもたちとの共生のことも触れています。次に13ページのところで「共生の心を育む教育」の2つ目の「三田市では障害のある人もない人も自分らしく」というところから共生条例のこと等載っているのですが、学校教育の中で共生の心を育む教育として交流および共同学習ということを明記しているかと思います。そのことについて少し触れていただけたらと感じています。</p>
事務局	<p>三田市では交流および共同学習を大切にしてきました。その一つの表れがひまわり特別支援学校、小学校中学校が、特別支援学校と併設しているというところもあります。交流および共同学習についても充実を図らなくてはならないと思っていますので、検討したいと思います。</p>
委員	<p>14ページの「豊かな人間性と社会性を育む教育」のところですが、人と自然の博物館と連携する等の取組を支援される、ここで重要なことは先生自身が勉強することを楽しいと思っていると、子どもたちも勉強が楽しいと思ってくれることにつながると思います。人と自然の博物館との連携や、先生が実際に勉強しようと思った時に、自費で頑張るのが現状かと思います。先生方が自分で何か勉強しようとするに対する支援の姿勢があると、まさに社会性を育む教育、豊かな人間性を先生自身から受け取れるような教育が実現できるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>予算の問題もありますので、ご検討いただければと思います</p>
学校関係者	<p>14ページの「環境教育の充実」のところですが、ここにSDGsが出てくるのですが、非常に狭い意味でのSDGsになっていると思います。あえてこれだけがSDGsにとらわれないかと思います。SDGsをやっていこうと思うと、子どもたちには実践、体験というものを通して力を身に着けて行くものだと思います。形としてはユネスコスクールに三田市の学校が加盟をしていくというようなことが、一つの指標になるのではないかと思います。兵庫県は特にユネスコスクールの加盟が少ないので、三田市が先頭を切って増やしていくことが重要ではないかと思います。</p>
委員長	<p>SDGsについて、1つだけを取りあげるとそれだけがクローズアップされますので、そのあたりのご検討をお願いしたいと思います。 それでは、基本施策3について、事務局説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局より、基本施策3について説明</p>

学校関係者	<p>16ページの主な取組1つ目の、「市立幼稚園におけるわくわく体操の推進」ですが、わくわく体操については、市立幼稚園の10園全園で定着しています。今は、三田保育所をはじめ私立の保育園でも行っているところもあります。わくわく体操だけが体づくりではなく、わくわく体操を基盤とした体づくりを市立幼稚園では推進していますので、そのように表現として変えるのはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>わかりました。そのような形で検討いたします。</p>
委員	<p>34ページの「朝食を毎日食べていると答える子どもの割合」について、食育を進めていく上で、朝食を食べている小6が96.7%、残りの3.3%の子は、どういう理由で朝食を食べていないのでしょうか。親が朝食を作っていないのであれば、そのような回答が得られているのでしょうか。食育を進めてアンケートを取っているのであれば、なぜ朝食が取れないのかの具体的な理由まで聞けたら良いのではないかと思います。</p>
委員長	<p>これは全国学力学習状況調査の児童質問調査と思いますが、その他でどういう理由なのかがわかる資料はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>朝食を食べていない子どもの背景調査について、事務局として把握しておりませんが、ご指摘を踏まえ改善していければと思います。</p>
委員長	<p>具体的に目標値が示されているので、目標を達成する手段というものを、委員からいただいたと思います。</p>
委員	<p>朝食を食べている子が97%というのは高い割合かとは思いますが、朝食に何を食べているかの調査は行われているのでしょうか。菓子パン一つでも朝食という子はいますし、朝食の内容について何かわかるものはありますか。</p>
事務局	<p>食べている内容についても、細かいところは調査しておりませんので、わかっていないのが現状です</p>
委員	<p>三田市で独自に調査するのも必要かと思いますが、他の市区町村で既にこの様な調査、この数パーセントの子たちがどのような背景なのかを調べている資料もありますので、それを踏まえて調査されるのが良いかと思います。</p>
委員	<p>今の朝食欠食の話なのですが、6年先の目標であれば、高い目標でも良いのではないかと思います。取組にも出てきておりませんので、目標とするのであれば、文言として何かしら載せた方が良いのではないかと思います。</p>

委員長	基本施策4について、事務局説明をお願いします。
事務局	事務局より、基本施策4について説明
委員	21ページの施策の方向、段落の2つ目ですが、発達障害という用語がここだけ突然登場することに違和感があります。インクルーシブ教育ですから、身体、知的、すべての障害が関わってくるはずです。ここは一度文を切って、「推進します。」とし、そして「発達障害を含む」を消していただいて、全体的な意味での子ども一人の自立というふうにつなげていただくほうがスムーズではないかと思います。
委員長	事務局の方で検討をお願いします。
学校関係者	<p>同じく21ページ、1段落目と2段落目で、どちらも指導の充実について述べられているところがあり整理していただければと思います。また現在の施策として、三田市では医療的ケアが必要な重度な児童、生徒に対しての施策に関してもこれまでずっと指導、支援をしてくださっています。そのことについても施策の方向性として、何らかの記述をしていただければと思います。</p> <p>もう1点、22ページの特別支援教育研修の充実とあります。通常学級の担任を含めたすべての教員が、特別支援教育の専門性を持たなければならないというところが大事ではないかと考えています。目標は1,500人ということで、すべての教員がということ意識した目標設定をされていますので、通常学級の担任を含めたというような言葉を入れていただければと思います。教育支援課が担当となっていますが、教育研修所も一緒にやっていける内容になってくるのではないかと思います。担当課が併記できるようであればお願いします。</p>
事務局	修正、反映したいと思います。
委員	小学校1年生の終わりのあたりで、促音や拗音がきちんと読み書きできるか、いわゆるスクリーニングという簡単な検査をすることで、隠れ学習障害と言われている子たちをピックアップし、その子たちを支援学級、特別支援教育サポートセンターのコーディネーターさんに紹介するという仕組みをつくっていらっしゃる自治体、大阪だと吹田市があります。そういった事例を、先行事例として取り入れられると良いのではないかと思います。
委員長	そろそろ時間が迫ってまいりましたので、本日はこのあたりでということによろしいでしょうか。
事務局	予定は6まで見込んでおりましたが、本日は時間になりましたので、次回に基本施策5以降の部分について協議をいただければと思います。今日いただいたご意

委員長	<p>見は次回に修正できればと思います。</p> <p>それでは今日はここで終わりたいと思います。</p> <p>最後に一つお願いがあります。公文書なので、用語をもう一度整理いただきたいと思います。例えばカリキュラム・マネジメントは中黒が入るのが文科省の用語ではないかと思います。そのあたりを整理いただければと思います。</p> <p>次回予定等について事務局から連絡をお願いします。</p>
事務局	<p>(4) 次回日程</p> <p>次回の日程ですが、7月5日月曜日、19時より601会議室で行います。</p>
事務局	<p>(5) 閉会</p> <p>閉会にあたりまして、教育長よりご挨拶をお願いします。</p>
教育長	<p>教育長あいさつ</p>
事務局	<p>それでは皆さん長い時間ありがとうございました。</p> <p><閉会></p>